

開発途上国援助の手だてを考えよう

はじめに

JICA教師海外研修の事前研修で印象に残った言葉がある。それは、「答えのない問いを一緒に考えよう。」というものだった。

第二次世界大戦後の復興期に国際社会から支援を受け経済成長をして今の日本の社会があるように、「グローバル化（Globalization）」が進み、国際的交流や連携が重要視される今日、開発途上国における貧困や格差、紛争などの諸問題に対して、日本の国際社会に対する支援や協力も大切となっている。そんな中で、中学校の英語の教科書には、「Think Globally, Act Locally」という国際協力や開発国への支援についての題材や「Fair Trade」について取り上げられている単元もあり、開発教育の視点での教科学習も取り入れられている。

私は、進路や自身の将来のことについて考え始める中学生には、異文化に対する理解を進め、多様性を受け入れ、互いに理解し協力し合える関係を構築できる人であってほしいという願いをもっている。そのためには、先ず「知ること」、そこから「考えること」が必須であると考えている。開発国や地域の実情を知り、そこから今の自分にできること、将来の自分にできることを考えるような機会を設定することで、「同じ世界に住む一人として」という視点と「世界の中の日本に住む一人として」という視点をもった生徒になってほしいと思うのである。

社会科地理分野の学習は、単に教科としての知識だけでなく、世界と日本との関わりを感じることができ教科であり、学習して得た知識を活用したり、統合したりして、その中から、「答えのない問い」について、自分なりの考えをもつとともに、更に世界の実情に興味をもつことに繋げてほしいと願う。

この教材の使い方・参加のルール

この教材では、正解がある問いではないため、これまで学習したことを踏まえながら思いを巡らせ、個人で考える場面では自由な発想を大切に、グループで協議したり検討したりする場面では、他の意見を否定したりせずに話し合いを進め、考えを深めていきたい。

全体のねらい

JICAのODA活動として、ナミビアのウォルビス・ベイ港におけるナミビアの「国際物流ハブ構築促進プロジェクト」を視察した。ナミビアの経済発展のために、徹底してリサーチを行って経済発展にむけてのビジョンを立て、念入りなプランニングからその事業に取り組み、成果を上げていることを知り、とても感銘を受けた。その事業に関わってこられた方々に話を聞く中で、そこにある資産をいかに活用し、発展に繋げていくかということは、生徒にとっての学習活動に通じるものがあり、学んだこと（知識・技能）を活用し、自分の考えを構築し、それを発表する（思考・判断・表現）活動に繋がりたいと考えた。

アクティビティ1 「クイズ・ナミビア」

●概要

アクティビティ2の導入として取り扱う。

●ねらい

ナミビアについて興味をもつ。

●主な対象

小学生、中学生

●用意するもの

- ・パワーポイント（P138）
- ・ワークシートまたはタブレットのデータ：印刷の場合は全員分

●所要時間

10分～

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. ナミビアについての4択問題に挑戦しよう。	パワーポイントなど、視覚教材を活用する。タブレットを活用して早押しクイズなどにできると盛り上がると思われる。 答えとあわせて、解説やエピソードを伝える。
ふり返り ナミビアに興味をもつことができたかを問う。	

●解説

ナミビアの国章にオリックスが描かれているが、滞在中、一番多く口にする機会があったのはオリックスの肉であった。また、ナミビアでは昆虫食もあるが、残念ながら滞在中に口にする機会はなかった。

クイズではナミビアの位置や国旗についても触れた。ナミビアの国旗の青は大空を、赤は独立のために流された血を、緑は豊かな森林資源を、黄は鉱物資源を表している。太陽は独立の喜びの象徴である。

ナミビアの国土は日本の約2.2倍、世界で2番目に人口密度の低い国である。（日本全土に山口県民が住んでいるくらいの人口密度であり、生徒にはそれだけで驚きとなった。）国名の由来にもなっている世界遺産のナミブ砂漠など豊かな自然と広大な大地を有している。また、独立までの歴史の中でドイツの植民地だった時代もあり、都市部ではヨーロッパ然とした街並みを見ることができ、ビールも美味しい。また、南アフリカ占領下だった時代があり、アパルトヘイト（人種隔離政策）が施行されていた。

クイズデータ (見本)

【1】 ナミビアの位置はどこ？ 配点 1  ☐ ア ☐ 欧 ☐ 南 ☐ 北	【2】 ナミビアの国旗はどれ？ 配点 1    
【3】 ナミビアの国土の大きさはどのくらい？ 配点 1 ☐ 日本とはほぼ同じ ☐ 日本の約2倍 ☐ 日本の約5倍 ☐ 日本の約10倍	【4】 ナミビアの人口はどれくらい？ 配点 1 ☐ 広島県の人口の2倍くらい ☐ 山口県の人口の2倍くらい ☐ 福岡県の人口の2倍くらい ☐ 東京都の人口の2倍くらい
【5】 これ、何の肉？ 配点 1  ☐ アフリカの野ウサギ ☐ オナキツ   ☐ ア ☐ オナキツ	【6】 ナミビアでよく食べられているものは？ 配点 1 ☐ いもやし ☐ お茶 ☐ ケール ☐ 小麦
【7】 この場所はどこ？ 配点 1  ☐ ナミビア ☐ カツハリ砂漠 ☐ サハラ砂漠 ☐ 西アフリカ	【8】 この絵、結れたのはいつ頃？ 配点 1  ☐ 30年頃 ☐ 100年頃 ☐ 300年頃 ☐ 170年頃
【9】 この場所が乾かす下にくるのはいつ？ 配点 1  ☐ 春の初旬 ☐ 夏 ☐ 秋の初旬 ☐ 冬	【10】 ヨーロッパのような気候。どこが影響？ 配点 1  ☐ イタリア ☐ フランス ☐ ドイツ ☐ オランダ

アクティビティ2 「あなたがナミビア大統領になったら、どうやってこの国を経済的に豊かにする？」

●概要

社会科地理分野で学習したことを踏まえ、学習したことを活用して、自分なりの考えをもつことをねらいとしている。アフリカ諸国、あるいはナミビアが抱えている問題に対して、EUの経済統合、中国の経済特区の設置、あるいはアジア諸国の外国資本の工場誘致などをヒントに、ナミビアのもつ資産を踏まえて、雇用確保と経済発展をしていくための方策を考える。

●ねらい

- ・ナミビアの実情を知り、ナミビアの抱える問題について知る。
- ・地理分野で学習したことを踏まえ、課題解決のための方策を考える。

●主な対象

中学生

●用意するもの

- ・パワーポイント（P141～142）
- ・ワークシートまたはタブレット用データ：印刷の場合は全員分
- ・地理の教科書、ノート、地図帳、資料集など（地理の授業で使用するもの）：各自

●所要時間

40分～

●すすめ方

学習活動・内容・問いかけ	留意点（ポイント）
1. ナミビアの実情について知ろう ・失業率の高さ ・著しい経済格差	ナミビアの現状を紹介し、この国の抱える諸問題について確認をする。
2. 「あなたがナミビアの大統領だったら、どうやってこの国を経済的に豊かにする？」と問う。	国の課題を提示する。主体的に考えるために「首長として」という視点を提示する。
3. 2. のアイデアを考えるため、地理で学習したことをふり返る。	EUの経済統合、中国の経済特区の設置、あるいはアジア諸国の外国資本の工場誘致など、地理分野で学習したことを確認する。
4. 各自でナミビアを豊かにするアイデアを考える。 ナミビアの課題（背景）、それを解消するための施策、実現した場合の効果を一連の流れで考える。	個人作業で10分間、ノートや教科書、資料集を活用して、既習事項を踏まえながら、自分の考えをまとめる。

5. グループ活動 各自が考えたアイデア、意見をその根拠とともにグループ内で共有する。それらをふまえて、グループで検討し、グループとしてのアイデアを考える。	4～6人のグループを作る。 20分程で互いの意見を尊重しながら案を考えていく。
6. 全体発表	各グループの意見を発表するとともに、聞く側はそのアイディアについて疑問点や問題点などを検討し、更に考えを深める。
ふり返し	ナミビアの抱える問題について考えることを通して、世界の様々な地域が抱える様々な問題について知ろうとする姿勢をもち、そこから何ができるのかを考える機会となったか。

●解説・コラム

ナミビアのウォルビス・ベイ港における「国際物流ハブ構築プロジェクト」でJICAによる支援が行われている。ウォルビス・ベイは水深が深いため大型船も着岸できる天然の良港であり、また、4カ国と国境を接しているナミビアは、周辺各国と通じる国際回廊を有した南部アフリカの玄関口となっている。また、隣国ザンビアなど鉱物資源が豊かな国が周辺にあり、世界各地と南部アフリカを結ぶポテンシャルをもっている。そのことを一つの例として、授業の最後に紹介をする。

ナミビア滞在中に訪問した日本大使公邸にて、西牧久雄在ナミビア日本大使がこれからの学生にとって大切なこととして話された「自分で疑問に思ったことを考え、自分で調べること」、「日本の歴史を知る、学ぶことで、自分に『誇り』を持つことができる」、「internationalization/globalizationの違いを理解することで、identityが醸成されmind setが培われる」、「興味・関心のあることを引き上げていく。そして、突飛なことでも口に出してみる」という言葉が印象に残っている。その言葉を生徒たちにも分かりやすい言葉で伝え、「調べる」「考える」「意見を述べる」ことに積極的に取り組むよう伝えた。

パワーポイント・ワークシート（見本）

島田先生の地理の授業

でも、島田先生は「英語の先生」だから、ちょっと英語で授業を進めてみようかなあ〜！

8月28日 全校集会

千歳山という巨大な広さ。水は地下 230 m から汲み上げている。
電気は太陽光発電と蓄電。

波 beer
なみびあ

ナミビア 共和国
Republic of Namibia

では、皆さんの記憶力を試します。

クイズ ナミビア



ナミビアの世界第2位

世界で2番目に人口密度が低い！

国土は日本の約2.2倍
人口は約250万人（山口県の2倍）

つまり、日本全土に山口県人しかいないくらい



location town

都市部はドイツの植民地だった歴史もあり、ヨーロッパ然とした街並み。整理された町並み。

仕事を求めて人が集まって形成された不法住居。水道、電気がないところもある。

location town



「学校が大好き！」と話すナミビアの子供たち。

しかし、小学校は、進級試験があり、得点不十分だと留年になる。そして、貧乏で学校に通い続けられない子ども達も多いそうで、卒業、小学校を卒業で安くなります。大人になる人が半数という事実。

炊き出しの配給を待つ列。これが一日の唯一の食事の子どもも多い。必要経費は\$2/月（≒約170円）。しかし、支払えない家庭がほとんど。多くは企業からの寄付や、支払える家庭で回っている。

ナミビア共和国
Republic of Namibia

- 植民地化やアパルトヘイト政策など苦しい時期を経て、1990年に独立をした新しい国
- 公用語は英語（多言語・多民族国家）。教育制度はしっかりしている。
- ナミブ砂漠を代表とした広大な自然を保持。
- インフラが整備され、首都のウィントフックは発展している。
- 牧畜や鉱業、観光産業が非常に強く、アフリカでは経済状況は比較的良好。
- ジェンダー平等が進んでいる国として、世界6位にランクイン。

※近年に人口増加の影響を大きく受けたナミビアは、国と地方の格差が顕著となっており、特に農村部では貧困が深刻化しています。2013年時点で、人口の約1/3が貧困線以下で生活していると言われています。

ナミビア共和国
Republic of Namibia

- 失業率の高さ。
ブルーバードによると、失業率は33.4%で、82カ国の調査対象国のうち南アフリカにつぎ、第2位に高い失業率。
- 経済成長の伸びに反して、富裕層と貧困層の経済格差も大きな課題。（世界2位）所得の不平等を測る指標であるジニ係数を用いると、日本が0.33であるのに対して、ナミビアのジニ係数は0.59と高い数値。
- 都市部では、急速な人口流入や資源に起因する食料の安全保障問題への早急な対応が必要。

経済発展&雇用確保

そこで、考えてみよう！
今日のめあて
ナミビアを経済的に豊かにするために、できることは何か？

視点
あなたが、ナミビア大統領として、この課題解決するとしたら...

そこで、考えてみよう！
今日のめあて
ナミビアを経済的に豊かにするために、できることは何か？

そうだ！巨大ショッピングモールを立てて、いろんなものを売って、たくさんのお金がもらえるようにしたいんじゃないか？

ナミビアは人口が少なく、需要が小さい。ナミビアの低所得者層の人たちは、そのようなものを買う余裕はない。

①（自分で疑問に思ったことを考え、自分で調べる）
→日本の歴史を知る。学ぶことで、自分に「誇り」を持つことができる。

②internationalization/globalization
→identity→mind set

③興味・関心のあることを引き上げていく（突発なことでも口に出してみる）

アフリカ諸国と異なり、経済的に発展している南アフリカ国です。ナミビアは土地が広い。人は少ない。比較的、乾燥で農業が困難。気候は多変（多気候国家）。ナミブ砂漠など観光資源がある。鉱産物（金とダイヤモンド）の発見が大きい。アフリカは多気候国家。アフリカは観光資源が豊富。

ちなみに...
国は資源をはじめ、経済統合をした。中国は経済特区を作り発展した。ヨーロッパは経済圏を築いている。ドイツは観光立国で収入を拡大。アフリカは観光資源の工場を建設。

地理の授業で学習したこと
いろいろなことを踏まえて、考えてみるとおもしろい。

ナミビアを経済的に豊かにするために、できることは何か？

自分の方
ナミビアは...
...なので
...
ナミビアの経済は豊かになり、雇用が増える。



jica

国の機関の一部を切り出して設立されたもの
独立行政法人国際協力機構 (JICA/ジャイカ)

日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っている。

国際物流ハブ構築促進プロジェクト

ナミビア

- 4ヵ国と国境を接している。
- 南部アフリカ地域の玄関口である。
- 周辺諸国へと通じる国際回廊を有している。

世界各地域と南部アフリカを結ぶ輸送ルートとして高いポテンシャル

ウォルビス・ベイ港

水深16mあり、大型の貨物船も入ることができる。
南部アフリカの物流の拠点→道路などのインフラの整備
民間企業の成長
マーケティング拡大

jica

ナミビアを豊かにするために、できることは何か？

ナミビアは……

グループで考えよう

具体的な方策

国際物流を支えるハブ港をつくる

そうすれば……

周辺国と世界の物流を支える大きな事業となる。
道路や鉄道などのインフラが整備される。
物流や交易などに関わる民間企業が成長できる。
マーケティングが拡大する。

世界各地と南部アフリカを結ぶポテンシャルをもっている

……なので

リサーチ→ビジョン→フランキンク→アクション

西村経済産業大臣がナミビア共和国アルウェンド鉱山・エネルギー大臣及びイーブンブ産業化・貿易大臣との間で、鉱業分野の協力、投資環境整備及び経済協力に関する共同声明に署名

8月8日(火曜日)、西村経済産業大臣は訪問先のナミビア共和国にて、アルウェンド鉱山・エネルギー大臣及びイーブンブ産業化・貿易大臣と会談し、鉱業分野、水素、アンモニア分野、貿易投資関係の強化に向けた協力について議論を行い、その成果として、それぞれの大臣との間で共同声明に署名しました。

萬古焼の土鍋

三重県四日市市の代表的な焼き物
昭和44年(1979年)に国から伝統的工芸品に指定

耐久性に優れ、割れにくい
国内シェアの8割ほどを占めている

原材料の輸入がストップ
土鍋が生産できなくなる危機

原材料の4割から5割を占める鉱物「ベタライト」ジンバブエから輸入

ジンバブエの鉱山が中国の会社を買収
「ベタライト」に含まれるリチウム

中国は電気自動車への転換で世界をリード
蓄電に重要なリチウムが狙い

Think Globally, Act Locally

● 知ること → 考えること

- ・日本のことを知る、世界の中の日本を知る。
- ・広くアンテナを張って、いろいろなことに興味をもつ。

● コミュニケーション力

- ・論理的に自分の考えたことを伝える力
- ・言葉だけでなく、相手の背景まで理解しようとする力

おわりに

現在、ITの進歩により生徒たちはたくさんの情報に触れている。その一方で、IT端末ではAIにより自分の興味、関心が高いコンテンツが次々と提示されるため、特化したことに関する情報は深く知っているものの、幅広く多くの情報に触れることが少なくなっているように感じている。併せて、スマートフォンを利用する時間が長い反面、テレビでニュースを見たり、新聞を読んだりする機会も少なくなっており、読書量も減っている傾向が本校生徒には強いことが、全国学力学習状況調査の結果からも分かる。

そのため、いろいろな情報を提示し、生徒の「知ること」を支援することも、教科指導と併せて、私たち教師の大切な役割であると感じている。そして、そこから「考える」に繋げていくことを学習活動の中で実践したいと考えている。

進路や将来について考え始める時期である中学時代に、いろいろな情報や価値観に触れる機会をもち、そのことについて考えることを通して、価値観や職業観などの醸成に繋げ、また、学びの意味や意義について考えることにも繋げていきたいと思う。また、globalizationが進む現代において、internationalization、localizationの視点も形成し、「同じ世界に住む一人」であるとともに、「日本人として」という見方や考え方も必要になると考える。その中で、「答えのない問い」について考え、また将来、その課題に向き合う生徒が一人でも出てくることを願っている。そして、「Think Globally, Act Locally」に繋がる生徒の育成に、これから少しでも携わっていきたいという思いを強くした教師海外研修とナミビアへの訪問であった。

実践事例報告

プログラム作成・実践者

島田 修司

学 校 名

下関市立夢が丘中学校

担当教科

英語

実践事例 1

実践教科

社会科地理分野

単 元 名

「世界の諸地域 アフリカ州」

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ

アフリカが本当に豊かな地域になるためには

(2) 単元のねらい

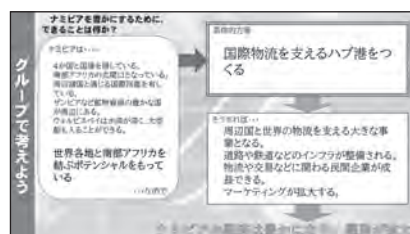
アフリカの抱えている問題に対して、持続可能な社会の実現について考える。

(3) 概 要

- ①ナミビアについてのクイズを行う。(タブレットを利用して早押しクイズで実施)
- ②ナミビアの教師海外研修で見たナミビアの様子やナミビアの抱える問題を伝える。
- ③「ナミビアを豊かにするためにできることは何か～あなたがナミビアの大統領として課題解決を図るとしたら～」(アクティビティ 2)
- ④JICAのODA活動、ナミビアのウォルビス・ベイ港における「国際物流ハブ構築促進プロジェクト」を一例として紹介する。

(4) 指導上の留意点

- ・地理的特徴や自然環境、産業や歴史背景などアフリカやナミビアの概要から考えさせる。
- ・EUの貨幣統一、経済統合、アジアの外国資本の工場誘致など、社会地理分野で学習したことなどに触れ、ヒントとする。



(5) 児童生徒の感想や学び・気づき

- ・ナミビアはダイヤモンド鉱山などの鉱物資源があるので、ミャンマーのネピドーのように、ダイヤモンド専用都市を人工的に設立し、ダイヤモンドの産出から加工まで全てをそこで行って輸出の拠点とすると、経済が発展すると思う。
- ・ナミビアは周りの国々と国境が接しているので、周辺の幾つかの国と協力する体制を作ることができれば、もしモノカルチャーが立ち行かなくなったときは、互いに協力したり、支援し合ったりす

ることで、ダメージが少なくなると思う。そのために、強い協力体制を作っておくと良いと思う。

- ・教育の充実を図る。また、インフラの整備を進めることで、仕事が生まれ雇用を確保できる。仕事をすることで、収入を得ることができ、より多くの人たちが教育を受けることができるようになると、未来に繋がっていくと思う。
- ・ナミビアは土地があるので、農業や工場などを公共投資で作って、多くの人々に職を与えるようにする。そうすれば、技術力が向上し生産が増えるので、自立できると思う。



(6) 授業を实践しての感想・ふり振り返り

社会科教員とTTで授業を行った。授業の最初からクイズまでは、英語教師である自分が英語で授業を進めた。それは、多言語、他民族国家であるナミビアでは、小学校3年生までは母語で授業を進め、学習していくが、小学校4年生からは公用語である英語で全ての授業が行われている実情より、英語で各教科の学習をすることの難しさや大変さを体感してほしいと思ったからである。

アフリカ州の概要や他地域の解説や授業で学んだことは、社会科教員が教科書や地図帳などを広げながら学習したことを復習し、そこから本時の課題について考える展開とした。生徒たちにとっては、これまで学習したことと関連付けて考える機会となったと思われる。

生徒たちは、いろいろと考えを巡らしながら興味をもって課題に取り組んでいたが、各自で考えをまとめたり、あるいはグループで検討したりする時間が不十分であった。そのため、検討が十分でなかったところや時間足らずで触れることができなかったところについては、後日、社会科教員にお願いをして、取り組んでもらった。最初から2時間の授業構成で授業案を作成し、課題について一人ひとりが自分たちの考えをしっかりと構築する時間を十分にとったうえで、グループで検討したり、検証したりする時間を十分に確保することができれば、学習をより深めることができたと思う。

■実践事例2

実践教科 道徳

単元名 「ダショー・ニシオカ」(C-(18) 国際理解、国際貢献)

【授業の概要】

(1) 単元のテーマ

真の国際協力

(2) 単元のねらい

それぞれの国の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることを理解し、日本人として国際協力を積極的に行おうとする実践意欲を培う。

(3) 概 要

1時間

①ダショー・ニシオカ(西岡京治)についてのビデオを視聴し、西岡の取組について知る。

②教科書を読んで考える。

「西岡さんはどんな思いで『国際協力とは、一時的な物の援助であってはならない。』と考えたのだろうか。

③まとめ、講話

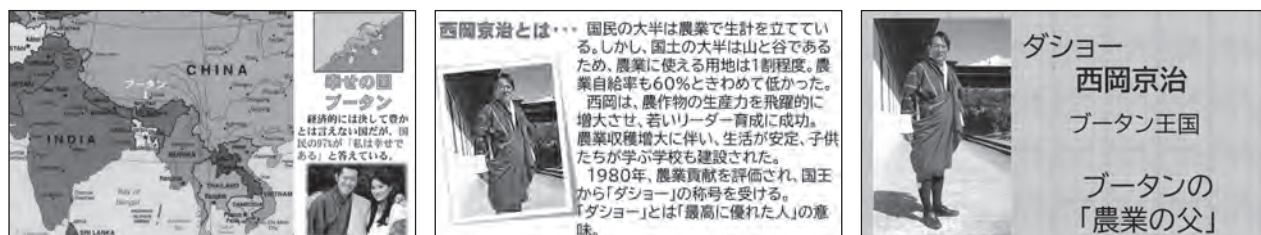
異文化を理解する・理解してもらうには時間と労力が必要であり、相手の立場で考えることが不可欠であることに気づく。

2 時間

④ナミビアについてのクイズを行う。(タブレットを使っの早押しクイズ)

⑤教師海外研修で見たナミビアの様子やナミビアの抱える問題を伝える。

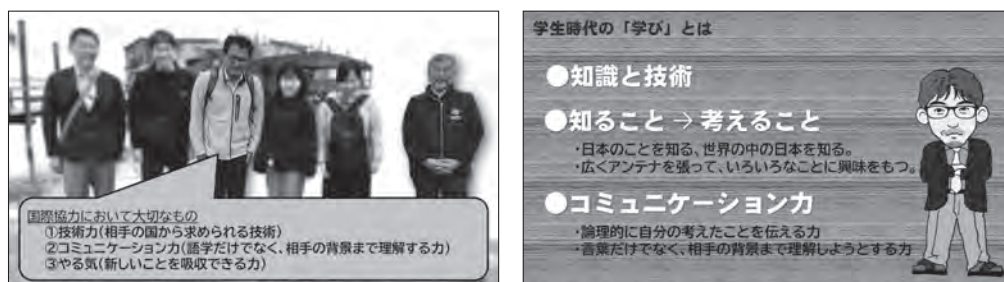
⑥「私たち日本にできることは何か～国際協力で大切なものは何か～」について各自で考える。



⑦グループで協議し、意見をまとめる。

⑧各グループの意見を発表する。

⑨まとめ (JICA職員の話)



(4) 指導上の留意点

JICAの前身である海外技術協力事業団の一員としてブータンで長期に渡って活動した西岡京治氏の言葉、「国際協力とは、一時的な物の援助であってはならない。」から、真の国際協力とはどのようなことを考える。

(5) 児童生徒の感想や学び・気づき

- ・今の自分たちがナミビアにできることを考えることは難しいと思いました。口だけならいえるけど、本当にそれをやろうとしたらできないことが多いので、もっといろいろな国のことや実情について知れたらいいと思いました。
- ・私たちの当たり前前の生活が、当たり前じゃない生活をしている人たちがこの世界にはたくさんいて、その人たちを身近なところで支えることができる仕事があることが分かって、本当に素敵な職業が日本にもたくさんあることを知りました。
- ・今の私にできることはあまりないので、まずは調べて、知ることを大切にしたいです。日本はナミビアなどに比べると豊かなので、農業や工業なども教えていけると良いと思いました。一時的に支援するだけでなく、その国が、その後も、自分たちで豊かになれるようにしていけないといけないんだと分かりました。
- ・他の国との協力のしかたは、今までは物を送るだけだと思っていたが、それだけではないということを知ることができました。将来、そのような仕事について、技術などを伝えたいと思いました。

- ・日本ができることは意外にいろいろとあるし、貧困で困っている海外の人たちを助けようとする活動は素晴らしいものだと思います。でも、海外の人たちを助けることも大切だけど、まずは日本の貧困で苦しんでいる人たちをなくした方が良いのではと思いました。

(6) 授業を実践しての感想・ふり振り返り

道徳において、「真の国際協力」で「ダショー・ニシオカ（C-(18) 国際理解、国際貢献）」という題材がある。JICAの前身である海外技術協力事業団の一員として、長年に渡りブータンで農業指導に携わったブータンの「農業の父」と呼ばれる西岡京治氏について扱われている題材である。西岡氏の功績はブータン国王にも認められ、国王から「最高の人」という意味の「ダショー」の称号を与えられた。

以前、全校集会でナミビアについて紹介する機会を得たが、その時の感想の中に「私たちにできることは何か」として多くの生徒が「募金をする」と書いていた。しかし、それから時間を経て「実際に募金した人はいるか」と問うと一人もいなかった。そこで、ここでは単に「募金する」からもう一歩踏み込んで、「国際協力とは、一時的な物の援助であってはならない。」という西岡氏の言葉を踏まえ、国際協力において大切なものは何かを考える機会とした。

ナミビアのウォルビス・ベイ港においてJICA支援の「国際物流ハブ構築プロジェクト」事業に携わる株式会社国際開発センターの主任研究員桑原準氏に現地でお話を伺う機会があった。桑原氏に国際協力において大切なことを尋ねると、①技術力（相手の国から求められる技術）、②コミュニケーション力（語学だけでなく、相手の背景まで理解する力）、③やる気（新しいことを吸収できる力）、という返答があり、実際に国際協力事業を行っている方々と、この単元で取り上げたブータンへの農業支援を行った西岡京治氏には、共通するものがあることに気づく。

本時においてはJICAの職員の方に参観していただいたことで、青年海外協力隊としての経験などのお話を聞くことができ、生徒にとっては、興味を広げたり、将来の選択肢として国際協力という視点ももつことができたりしたようである。また、併せて、そのために授業や学習することの意義や意味についても考える機会となったようである。

このような学習は、一時的、一元的なものではなく、継続的に多元的に行っていくことで、生徒にとって、より考える機会となりうるものだと思う。JICA教師海外研修の事前研修で印象に残った言葉として、「答えのない問いを一緒に考えよう。」というものがあるが、これからも、自分自身が研鑽しながら、生徒と共に「答えのない問い」について考えていく機会をもち続けたいと思った。



JICA職員が授業を見学した際の様子